総領事からのメッセージ（第 8 回）

5 月中旬以降も東日本大震災（3．11）の被災者のための義援金が当館に届けられています。

●インディアン・クリークビレッジ在住の女学生からの義援金：

6 月 2 日午前、ランソム・エバグレイド校に通うセリーヌ（Ms.Celine Klepach）さんは、お母さんと一緒に当館を訪問し、3 月 11 日の大津波被害のニュースを知ってから、自分で作った特製ブレスレットを各所で販売してこつこつ貯めたお金を、義援金として津波被災者のために役立ててほしいとして当方に手渡してくれました。当方より、感謝の言葉を申し上げ、早速、日本赤十字社を通じて被災者のために役立てるよう取り計らいますとお伝えを致しました。

◎「国際青年ダンスフェスティバル」の出演者による日本への義援金（5 月 13 日）

マイアミからフロリダ半島を大西洋岸沿いに北に向かって高速道路を 40 分ほど行くと、アベントゥーラ（Aventura）市があります。同市海岸沿いに建つ芸術文化センター（Arts& Cultural Center）で、国際青年バレーダンス・フェスティバル（International Young Dancers Festival）公演が 5 月 13日（金）夜にあり、フロリダ州の主催団体からの御招待を受けて出席しました。

今回の国際フェスティバルに参加したのは、ポーランド・独・デンマーク、米国、メキシコ、日本、ペルーの 7 か国の若者です。同センター劇場内は400 席ほどあり、ステージと客席が近くて一体感がありました。1 コマ 5－7分程度の出し物で、冒頭の 1 コマには、「ヨシエ」さんと「コーヘイ」君という日本のソロリストが、他の国々からの若者ダンサーとともに軽やかに踊って見せて、観客から大きな拍手に迎えられました。その他に目を惹いたのは、ショパンのノクターンの曲に合わせて踊るポーランドの若き女性達、ソロリストの日本女性がチャイコフスキー作曲のアラビア風ダンスに併せて大きなベールを使い、アラビアンナイト風の衣装をまとっての踊りもありました。女子中学生の年頃の出演者達もいて、緊張しながらも、懸命に笑顔で踊っているところに観衆が大いに好感を持ち、演技が終わるたびに盛大な拍手がありました。

さて、当地でのバレー公演を主催したフロリダ州のバレー民間団体が事前に実施した日本震災チャリティーで集めた義援金の贈呈が公演に先立ってステージ上で行われました。当方

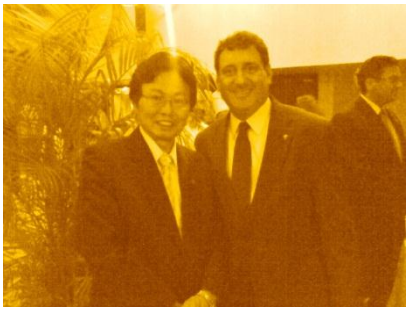
よりは、被災者に寄せられたお気持ちに対して御礼を申し上げると共に、日本で震災復興に向けた動きが既に始まっています、今後も日本と連帯したいとのお気持ちの方は、今度は、是非、日本を訪問（Visit Japan）してくださいとの御挨拶をしたところ、観客から拍手がありました。

◆「モリカミ」新ボードメンバーとの懇談：

5 月 19 日には、デルレイビーチにあってフロリダ州の日本文化の発信拠点となっているモリカミ美術館・庭園の運営新理事長以下主要メンバーの方々を公邸にお招きして懇談を致しました。4 月から新メンバーによる運営体制となったばかりですが、この機会にいろいろと展示施設・企画運営についてのお話を伺うことができました。なお、モリカミの HP は、とても美しい内容で、工夫を凝らして作成されています。
（ http://www.morikami.org/index.php?submenu=AboutUs&src=gendocs&ref=AboutUs&category=AboutUs ）

◆スウープ・フロリダ開発公社総裁と歓談：

6 月 3 日、マイアミ市内のホテルで行われたグレーター・マイアミ商工会議所主催のレセプション会場で、フロリダ開発公社総裁のグレイ・スウープ（Swoope）氏と歓談する機会がありました。同総裁は今年 2 月末に州知事から任命されましたが、それ以前はミシシッピ州の経済開発公社トップとして勤務し、トヨタ社を始めとした多数の海外企業を同州に誘致することに手腕を発揮しました。スウープ氏のこのような手腕を大いに評価したスコット・フロリダ州知事が、自らの選挙公約としている雇用創出と州内投資促進のため、州の経済及び貿易発展を担うフロリダ開発公社（エンタプライズ）総裁に任命を行いました。スウープ総裁からは、当方に対し、これまで日本へたびたび行く機会があって、トヨタ本社にも行ったことがある、今後、フロリダ州と日本との経済関係強化を積極的に考えたいとの趣旨の御発言がありました。（了）



2011 年 6 月5日
在マイアミ日本総領事
川原　英一